



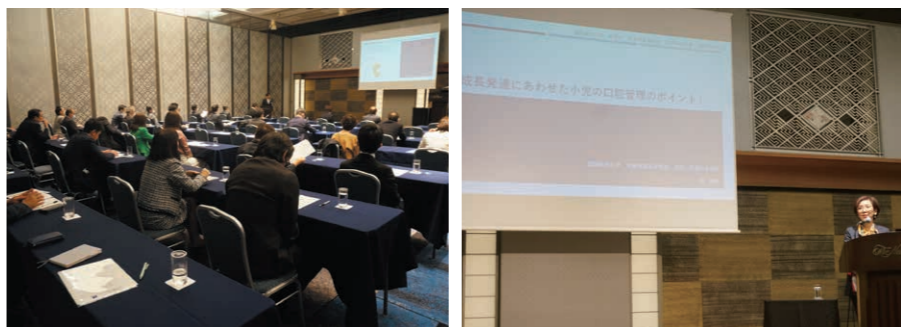
佐賀県同窓会活動報告

酒井 貴芳(25期生)

令和5年4月1日(土)ホテルニューオータニ佐賀において4年ぶりに福岡歯科大学佐賀県同窓会総会および学術講演会が開催され、多くの先生方にご参加いただきました。

総会では小柳会長よりご挨拶があり、福岡歯科大学より診断全身管理学講演画像診断学分野香川 豊宏教授から大学の近況報告を伺いました。引き続き行われた学術講演会では、福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野教授岡 暁子先生より「成長発達に合わせた小児の口腔管理のポイント」という演題で、ご講演いただきました。講演のなかでは、8020を達成するためには、歯肉の健全な歯周組織の維持のみならず、正常咬合の重要性についてお話しいただきました。口腔機能発達不全による歯列不正の影響についてもご説明いただき、口腔機能発達不全症のチェックリストについて動画や音声を変え、具体的にご教授いただき非常に興味深く拝聴しました。

講演終了後、懇親会が開催され、来賓として本部より吉永会長、江藤専務にもご出席いただきました。会場では4年ぶりに開催されたこともあり、久しぶりに顔を合わせる先生方も多く、至る所で談笑が聞こえ大変和やかな会になりました。今回の会の開催に関してご尽力いただいた先生方へご参加いただいた先生方に御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、福岡歯科大学ならびに同窓会の今後さらなる発展を切に願っております。



同窓生からの手紙

50周年記念事業

都築 尊(18期生)

学内同窓会会長の都築でございます。本学同窓会は、九州を中心に各支部がありますが、大学在籍者で構成される学内同窓会という支部があるのもアピールさせていただきますと思います。

学内同窓会はこれまでに、入学式や卒業式、歯科医師臨床研修修了式などのイベントのたびに同窓会紹介をしてまいりました。例年、入学式と卒業式では同窓会会長をお呼びして祝辞を頂戴し、同窓会入会案内をしておりました。また、歯科医師臨床研修修了式においても同窓会の結束を強めるべく、同窓会アピールをしてまいりましたが、近年コロナ禍で人が集まるイベントが中止される中、同窓会アピールもままならず、学生や卒業生の間で同窓会の影が薄くなっていくのを肌で感じておりました。しかし、昨年12月11日に行われた福岡歯科大学学術総会・学術大会では、シンポジウム1で「大学と同窓生をつなぐ学位・認定医・専門医の取得について」が開催され、多くの同窓生の先生方にご参加いただきました。さらに本年4月7日、初めて50周年記念講堂において入学式が執り行われ、大きなスクリーンにスライドを映して同窓会の活動を示すことができました。

徐々に対面でのイベントが再開される中で、この波に乗って同窓会もさらに結束を強めていきたいと考えております。今後ともどうぞ学内同窓会を宜しくお願ひ申し上げます。



経験は買ってでもしろ

大川 伊織(23期生)

2001年に卒業し歯科医師人生も早や22年が経ちました。

卒後臨床研修制度にて熊本市の熊本市市民病院と伊東歯科医院で1年間研修しました。熊本市市民病院では歯科外来診療を行いながら、毎週各1回ずつ救急外来や形成外科の手術アシスタントとして学ばせてもらいました。しかし、一番自分の糧になっているのは、毎日診療の合間に歯科衛生士等と手分けして、口腔衛生状態の悪い病棟患者に口腔ケアを実施したこと。その頃は口腔ケアの黎明期で、当時の私は「これって何の意味が...?」と思いつつ、日々口腔ケアを行っていたものです。

研修終了後、しばらくして実家の歯科診療所に戻り、そこから20年間父のもと、副院長として現在も日々の診療にあたっています。当時の経験は、当院での歯科訪問診療や有病者の診療に大変役立っています。

これからは地域包括ケアシステムや2040年問題という歯科界の大きな転換期。まさに「経験は買ってでもしろ」ですね。



卒業生 NOW

ニューヨーク大学CGF 臨床研究コースに参加して

松尾 勇弥(35期生)

2021-2022年福岡歯科大学同窓会&ニューヨーク大学(NYU)主催PRF/CGF臨床研究プログラム&NYUシンポジウムコースに参加させていただきました。

新型コロナウイルス感染症蔓延による緊急事態宣言等もあり、開催当初はZoomでの研究成果の報告会を余儀なくされ、プログラム日程が大幅にずれ込み、今回ニューヨーク大学(NYU)での修了式、証書授与が無事2023年5月に開催されることになりました。

このプログラムの研究は、多血小板フィブリン(PRF)または濃縮成長因子(CGIF)の抜歯窩への適応によるソケットプリザベーションの研究に参加させていただくことは大変貴重な経験でした。なかなかプロトコールに合致する症例が少なく苦渋し、研究の難しさを痛感いたしました。Dr.Jason Kimのもとで研究を行うことができ大変充実しておりました。

また、臨床研究以外ではDr.Stephen WALLACEをはじめ世界的に有名な講師陣による貴重な講演が行われ、上顎洞挙上術(サイナスリフト)をはじめ、審美領域のインプラント処置、抜歯直後のソケットプリザベーション、インプラント困難臨床症例の対応、スマイルデザイン等、多岐にわたる専門性の高い先生方の講演を拝聴することで、一般歯科医の私は新たな視点を獲得することができました。

この研修は、私にとって非常に貴重な経験でした。このプログラムで学んだ知識や技術を生かし、今後、歯科医療の役に立てるように取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、研究および研修全てにおいて支援していただきました城戸寛史教授、また私が参加するにあたって全面的に協力してくれた自院スタッフ、このプログラムに関わりサポートしてくださいました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

